



市民とともに釧路の歴史を振り返った「続・警鐘」(平成10年9月釧路市生涯学習センター)

う埋めようのない開きが生じており、その半数にも達するかどうかというわびし



全国最優秀賞の判

分部分さんの弟翔史君(九)も全道同市立北斗小三年も全道最優秀賞と、障害者福祉に「心の輪を広げる体験作文」と「障害者の日のポスター」を全国募集。作文がこの結果、史織さんの「白

# 釧新郷土芸術賞に輝く受賞者の横顔

■下■

## 市民参加劇で歴史を振り返る

市民参加劇で歴史を振り返る。演技者としても幅広い層の受け入れを意識し、釧路聴力障害者協会と「地元を舞台に」という念願の実現だった。そして十年九月、昭和三年のマグロ景気の釧路を題材とした「続・警鐘」を、総勢四十三人の市民参加劇として上演。「市民の手でよみがえる釧路の歴史」として好評を博した。



中山代表

目の年の受賞で、思いがけない喜び。団員不足のたと実感している」と四代目代表の中山知征代表

市内児童館をはじめ、老人福祉センター、釧路刑

は、昭和六十二年に釧路市で開催された全国ろう

# 釧路を題材に創作劇

## 各地巡回楽しさを伝える

25年間で通算65回の公演

昭和四十八年六月結成。今年、創立二十五周年を迎えた。「ちよど節

時もあったが、これまで続けてきて本当に良かった

は喜びを語る。二十五年間で通算六十五回の公演を行う。初演

務所、景雲中学校、弟子屈高校、羅臼町公民館、白糠養護学校などでの巡回公演も実施し、演劇フ

あ者大会では合同で「ベツカンコおに」を上演して以来、「デフシアター

尾田事務局長は「今までウチの公演にかかわってきた市民は百人を超えており、その支えがあったからこそやってこれた。地域に生きてこそその劇団であることを忘れたくない」と、市民とともに歩む劇団であり続けることを約束する。

### 演劇

## 釧路演劇集団

(中山知征代表・団員10人)

作品や「アンネの日記」「フナナよ木からおりてこい」など幅広い層が楽しめる演劇を意識する。

く、あらゆる地域住民に演劇の楽しさを伝える劇団としてその存在を確立してきた。

かかわらず多くの市民に感動をもたらした。